

Unit 14

スニペット、強調表示、ソート、ページネーション

スニペットを使用する

強調表示を使用する

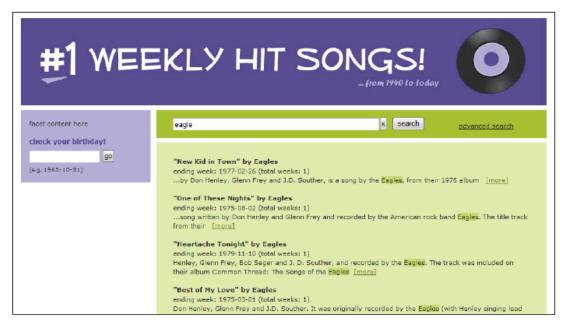
ソートオプションを作成する

ページネーションを設定する



スニペットを使用する

通常、検索結果にはマッチしたドキュメントの部分が表示されます。この際、検索にマッチした部分は強調表示され、また周りのテキストを表示してコンテキストを示します。このような検索結果を、スニペットと呼びます。



search API では search:response の出力としてスニペットを返します。これにより、ドキュメントのどこでマッチしていたのかを示す検索結果ページを簡単に作成できます。

```
-<search:response total="53" start="1" page-length='10">
-<search:result index="1" uri="/songs/The-O-Jays+Love-Train.xml" path="fn:doc("/songs/The-O-Jays+Love-Train.xml")" score="462" confidence="0.614061" fitness="0.881754">
-<search:snippet>
-<search:match path="fn:doc("/songs/The-O-Jays+Love-Train.xml")/*:top-song/*:title">
Love
<search:highlight>Train</search:highlight>
</search:match>
```

しかし、どのようなスニペットを表示したらよいのかは、アプリケーションごとに大きく 異なります。このため、search API ではスニペットをカスタマイズできます。これにはビルトインのスニペットアルゴリズムを使うか、あるいは自分でスニペット用のコードを記述 します。例えば、以下のコードでは、スニペットを返す際に descr 要素を優先させます。

Lab 14 - 2

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017



Exercise 1: スニペットを使用する

この演習では、Top Songs 検索結果用のスニペットを設定します。

1. クエリコンソールに以下のコードを入力し(ex14-1.txt からコピーできます)、 [Run]ボタンをクリックします。これで、search API がデフォルトで返すものを確認できます。

import module namespace search = "http://marklogic.com/appservices/search" at
"/MarkLogic/appservices/search/search.xqy";
search:search("train")

- 2. 返された要素を確認してください。search:response、search:result、search:snippet、search:match、search:highlight があります。
- 3. クエリコンソールで、transform-results ならびに descr を優先要素とすることを含む options ノードを作成します。

- 4. [Run]ボタンをクリックして結果を見ます。検索は依然としてドキュメント内の要素に対して行われていますが、スニペットは descr 要素だけから返されています。
- 5. search:result 要素に uri 属性があることを確認します。これを使って、曲のコンテンツの残りすべてにアクセスしてみます。
- 6. テキストエディタで index.xqy ファイルを開きます。7 行めあたりにある<transform-results apply="raw" />要素を以下のように**置き換え**ます(クエリコンソールからコピーできます)。

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017

Lab 14 - 3



7. 37 行めあたりにある search-results 関数を編集し、description 関数を作成します (ex14-1c.txt からコピーできます)。これによりオプションが変更された search API の結果を受け取ることができます (つまりこれまでの<transform-results apply="raw" >の代わりにスニペットの結果を受け取れるようになります)。

```
declare function local:search-results()
let $q := xdmp:get-request-field("q")
let $results :=
   for $song in search:search($q, $options)/search:result
   let $uri := fn:data($song/@uri)
   let $song-doc := fn:doc($uri)
   return
     <div>
      <div class="songname">"{$song-doc//ts:title/text()}"
      by {$song-doc//ts:artist/text()}</div>
      <div class="week"> ending week:
      {fn:data($song-doc//ts:weeks/@last)}
      (total weeks: {fn:count($song-doc//ts:weeks/ts:week)})</div>
      {if ($song-doc//ts:genres/ts:genre)
      then <div class="genre">genre:
           {fn:lower-case(fn:string-join(($song-doc//ts:genres/ts:genre),", "))}
           </div>
      else ()}
      <div class="description">{local:description($song)}
       <a href="index.xqy?uri={xdmp:url-encode($uri)}">[more]</a>
      </div>
    </div>
return
  if($results)
   then $results
   else <div>Sorry, no results for your search.</div>
};
declare function local:description($song)
   for $text in $song/search:snippet/search:match/node()
   return $text
```

- 8. このファイルを保存し、ブラウザに再読み込みします。
- 9. ブラウザでテストします。「significant」という語を検索します。
- 10. 説明部分に「significant」という語を含むスニペットが表示されていることがわかります。

Lab 14 - 4

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017



強調表示を使用する

結果のスニペット内に強調表示を使用するには、search API の search:highlight 要素を使用します。これにより自動的にスニペットが強調表示されます。

```
<search:result index="1" uri="/songs/The-O-Jays+Love-Train.xml"</pre>
path="fn:doc("/songs/The-O-Jays+Love-Train.xml")" score="480" confidence="0.631514"
fitness="0.91987">
   <search:snippet>
      <search:match path="fn:doc("/songs/The-O-Jays+Love-Train. xml")/*:top-</pre>
song/*:descr/*:p[1]">"Love <search:highlight>Train</search:highlight>" is a song by
Kenny Gamble and Leon Huff that was a hit record...
      </search:match>
      <search:match path="fn:doc("/songs/The-O-Jays+Love-Train. xml")/*:top-</pre>
song/*:descr/*:p[2]">
      Besides its release as a single, "Love
      <search:highlight>Train</search:highlight>
             the last
      song on The O'Jays' album
      </search:match>
   </search:snippet>
</search:result>
```

search:highlightの値は、CSS コードで容易に参照でき、強調表示されます。

```
for $text in $song/search:snippet/search:match/node()
return
  if(fn:node-name($text) eq xs:QName("search:highlight"))
  then <span class="highlight">{$text/text()}</span>
  else $text
```



Exercise 2: 強調表示を使用する

この演習では、Top Songs の index.xqy クエリページの結果において、検索語を強調表示します。

1. クエリコンソールで、前回の演習で使用したコードがあるタブを開きます (ex14-2.txt からコピーできます)。[Run]ボタンをクリックします。

2. search: highlight 要素を確認してください。

```
"Love

<search:highlight>Train</search:highlight>
" is a song by Kenny Gamble and Leon Huff that was a hit record...
```

3. エディタ内で description 関数にコードを追加し、説明 (description) 部分で検索語が 強調表示されるようにします。

```
declare function local:description($song)
{
   for $text in $song/search:snippet/search:match/node()
   return
        if(fn:node-name($text) eq xs:QName("search:highlight"))
        then <span class="highlight">{$text/text()}</span>
        else $text
};
```

- 4. index.xgv を保存し、ブラウザで再読み込みします。
- 5. 「train」という語で検索します。
- 6. 説明部分で、「train」がすべて強調表示されていることがわかります。

Lab 14 - 6

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017



ソートオプションを作成する

search:search()のような検索式では、デフォルトでは結果は関連度順に返されます。XPath 式では、デフォルトではデータベース内での出現順に返されます。XQuery 式で「order by」ステートメント(Unit 4 で紹介しています)を使用したり、あるいは search API のオプションで search:search()リクエストを使用することで、結果の表示順を変更できます。

search API で結果の順序を指定する場合には、options ノードを使います。例えば、以下のoptions ノードでは、結果を title または artist の順番で表示します。

```
<options xmlns="http://marklogic.com/appservices/search">
<search:operator name="sort">
   <search:state name="title">
      <search:sort-order direction="ascending" type="xs:string">
          <search:element ns="http://marklogic.com/MLU/top- songs" name="title"/>
      </search:sort-order>
      <search:sort-order>
          <search:score/>
      </search:sort-order>
   </search:state>
   <search:state name="artist">
      <search:sort-order direction="ascending" type="xs:string">
         <search:element ns="http://marklogic.com/MLU/top-songs" name="artist"/>
      </search:sort-order>
      <search:sort-order>
         <search:score/>
      </search:sort-order>
   </search:state>
</search:operator>
</options>
```

この後、以下の式を使って「train」の検索結果を title 順で並べることができます。

train sort:title

一方、以下の式では結果を artist 順で並べます。

train sort:artist

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017

Lab 14 - 7



レンジインデックス

search API の options ノードを使用する際には、参照されるすべての要素や属性にレンジインデックスが必要です。インデックスのユニットで説明したように、レンジインデックスは管理画面の Configure - Databases - top-songs - Element (あるいは Attribute) Range Indexes から設定できます。

search API のソートで使用されるレンジインデックスでは、「scalar type」が「string」に設定されている場合、デフォルトのコレーション(http://marklogic.com/collation/など)を持つレンジインデックスが必要です。

検索結果のソートを理解する

ソート順を変更しても、検索で返される結果の数は変わりません。これは単に表示順が変わるだけです。例えば「water」を検索した場合、「water」という語を含むすべてのドキュメントが返されます。ドキュメントの表示順は変更できます(関連度順の代わりに、artist順にするなど)が、「water」を含むドキュメントの総数は変わりません。





Exercise 3: ソートオプションを作成する

この演習では、search API の options を使って、Top Songs アプリケーションの検索結果用に「ソート」のドロップダウンメニューを作ります。

1. **index.xqy** の冒頭の方で、options ノード内に「sort」という名前の演算子を作成します (**ex14-3.txt** からコピーできます)。

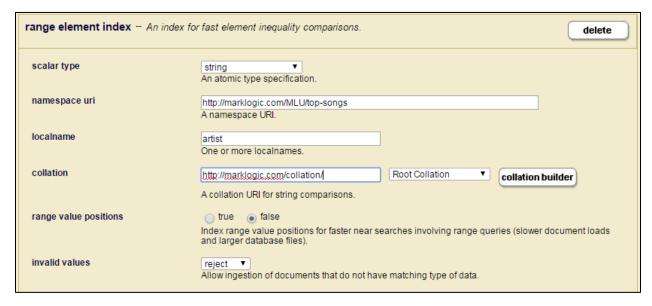
```
declare variable $options :=
<options xmlns="http://marklogic.com/appservices/search">
  <transform-results apply="snippet">
      cpreferred-elements>
         <element ns="http://marklogic.com/MLU/top-songs" name="descr"/>
      </preferred-elements>
  </transform-results>
  <search:operator name="sort">
      <search:state name="relevance">
         <search:sort-order direction="descending">
           <search:score/>
         </search:sort-order>
      </search:state>
      <search:state name="newest">
         <search:sort-order direction="descending" type="xs:date">
             <search:attribute ns="" name="last"/>
             <search:element ns="http://marklogic.com/MLU/top-songs" name="weeks"/>
         </search:sort-order>
         <search:sort-order>
             <search:score/>
         </search:sort-order>
      </search:state>
      <search:state name="oldest">
         <search:sort-order direction="ascending" type="xs:date">
             <search:attribute ns="" name="last"/>
             <search:element ns="http://marklogic.com/MLU/top-songs" name="weeks"/>
         </search:sort-order>
         <search:sort-order>
            <search:score/>
         </search:sort-order>
      </search:state>
      <search:state name="title">
         <search:sort-order direction="ascending" type="xs:string">
             <search:element ns="http://marklogic.com/MLU/top-songs" name="title"/>
         </search:sort-order>
         <search:sort-order>
             <search:score/>
         </search:sort-order>
      </search:state>
      <search:state name="artist">
         <search:sort-order direction="ascending" type="xs:string">
```

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017

Lab 14 - 9



- 2. 演算子の名前は「sort」になっています。また state として「relevance」、「newest」、「oldest」、「title」、「artist」があります。各 state には、楽曲ドキュメントに対応する名前の search:element があります(「artist」という state には、「artist」という名前の search:element があります)。
- 3. 「newest」という state にある、search:attribute 要素と search:element 要素の name 属性を確認してください。
- 4. 「newest」の search:sort-order には、direction (descending) と type (xs:date) がある ことを確認してください。
- 5. weeks 要素の last 属性用に作成したインデックス (scalar type は date) が、「newest」 ならびに「oldest」という検索 state に対応していることがわかります。
- 6. **artist** 用の要素レンジインデックスを設定します。管理画面で Configure Databases **top-songs Element Range Indexes** に移動し、[**Add**]タブを選択します。 scalar type として **string** を選択します。 artist 要素の名前空間を入力し、コレーションはデフォルトのままにします。



Lab 14 - 10

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017



- 7. ステップ 6 を**繰返し、title** 要素用のレンジインデックスを作成します。コレーションはデフォルトのままにします。
- 8. このデータベースの[Status]タブで、再インデックス付けが完了したことを確認します。
- 9. index.xqy ファイルを**保存**し、これまでの作業を確認します。検索フィールドに、「train」の後に sort 演算子ならびに state の名前を 1 つ(「oldest」など)を付けて入力します。[search]ボタンをクリックします。



- 10.「train」を含むドキュメントが古い順(「oldest」から)で表示されます。
- 11. このクエリを以下のように変更します。

train sort:artist

- 12. [search]ボタンをクリックします。今度はドキュメントが artist のアルファベット順で並んでいることがわかります。
- 13. エンドユーザーにソートのドロップダウンメニューを提供します。ex14-3b.txt からソート関数 3 つをコピーし、search-results 関数の前に貼り付けます。

```
the query string :)
(: gets the current sort argument from
declare function local:get-sort($q){
   fn:replace(fn:tokenize(\$q,"") [fn:contains(.,"sort")],"[()]","")
(: adds sort to the search query string :)
declare function local:add-sort($q){
  let $sortby := local:sort-controller()
   return
      if($sortby)
         let $old-sort := local:get-sort($q)
         let $q :=
            if ($old-sort)
            then search: remove-constraint ($q,$old-sort,$options)
            else $a
         return fn:concat($q," sort:",$sortby)
      else $q
};
(: determines if the end-user set the sort through the drop-down or through editing
the search text field :)
declare function local:sort-controller() {
   if(xdmp:get-request-field("submitbtn") or not(xdmp:get-request-field("sortby")))
```

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017

Lab 14 - 11



```
then
      let $order := fn:replace(fn:substring-after(fn:tokenize(xdmp:get-request-
field("q", "sort:newest"), " ")[fn:contains(., "sort")], "sort:"), "[()]", "")
      return
         if(fn:string-length($order) lt 1)
         then "relevance"
         else $order
   else xdmp:get-request-field("sortby")
};
(: builds the sort drop-down with appropriate option selected :)
declare function local:sort-options(){
  let $sortby := local:sort-controller()
  let $sort-options :=
      <options>
         <option value="relevance">relevance</option>
         <option value="newest">newest</option>
         <option value="oldest">oldest</option>
         <option value="artist">artist</option>
         <option value="title">title</option>
      </options>
   let $newsortoptions :=
      for $option in $sort-options/*
      return
      element {fn:node-name($option)}
         $option/@*,
         if($sortby eq $option/@value)
         then attribute selected {"true"} else (),
         $option/node()
      }
   return
      <div id="sortbydiv">
      sort by:
         <select name="sortby" id="sortby" onchange='this.form.submit()'>
         {$newsortoptions}
         </select>
      </div>
};
```



14. search-results 関数に、add-sort 関数と sort-options 関数を呼び出すコードを貼り付けます (14-3c.txt からコピーできます)。

```
declare function local:search-results()
   let $q := local:add-sort(xdmp:get-request-field("q"))
   let $results :=
      for $song in search:search($q, $options)/search:result
      let $uri := fn:data($song/@uri)
      let $song-doc := fn:doc($uri)
      return <div>
         <div class="songname">"{$song-doc//ts:title/text()}" by {$song-
doc//ts:artist/text()}</div>
         <div class="week"> ending week:
         {fn:data($song-doc//ts:weeks/@last)} (total weeks:
         {fn:count($song-doc//ts:weeks/ts:week)})</div>
         {if ($song//ts:genres/ts:genre) then <div class="genre">genre">genre: {fn:lower-
case(fn:string-join(($song-doc//ts:genres/ts:genre),", "))}
         </div> else ()}
         <div class="description">{local:description($song)}
          <a href="index.xqy?uri={xdmp:url-encode($uri)}">[more]</a>
         </div>
      </div>
   return
      if($results)
      then (local:sort-options(), $results)
      else <div>Sorry, no results for your search.</div>
};
```

- 15. index.xqy を保存し、ブラウザでテストします。「midnight」(あるいは他の語) で検索します。
- 16. 今度はソートのドロップダウンが表示されています(検索結果とともに)。
- 17. artist (あるいは他のソートオプション) を選択します。
- 18. 結果が artist 順になったことを確認します。
- 19. index.xqy の最後の方で、検索フィールドの値を変更し、検索フィールド内にソート 演算子が表示されるようにします。

```
<input type="text" name="q" id="q" size="50" value="{local:add-sort(xdmp:get-request-field("q"))}"/>
```

20. これを保存し、ブラウザでテストします。

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017

Lab 14 - 13



ページネーションを設定する

検索で数百万件がヒットするような場合、すべての結果を web ページに表示させるのは現実的ではありません。最も関連性が高い結果は、リストの冒頭に表示されるべきです。通常ユーザーが必要な結果は、最初の 10 から 30 個にあるでしょう。



クエリ側のページネーションでは、ユーザーがサブミットする検索リクエストに、返されるページに関する情報も含まれています。その後、サーバーはこの結果の長さ、結果の開始位置、この検索基準にマッチした項目の想定数などを返します。

search API:合計、開始位置、ページ長

search API が返す結果には、合計、開始位置、ページ長などが含まれています。これらの値はエンドユーザーへのインターフェイスで活用できます。

```
-<search:response total="91" start="1" page-length="10">
-<search:result index= 1" un="/songs/The-Beatles+She-Loves-You.xml" path="fin:doc("/songs/The-Beatles+She-Loves-You.xml")"
score="459" confidence="0.617545" fitness="0.967909">
-<search:snippet>
-<search:match path="fin:doc("/songs/The-Beatles+She-Loves-You.xml")/*:top-song/*:artist">
The
-<search:highlight>Beatles</search:highlight>
-<search:highlight>Beatles</search:highlight>
-<search:match>
```

開始位置を指定するには、search:search()関数の3つめのパラメータ(オプション)を使用します。例えば以下のコードは、11番めから20番めのドキュメントを返します。

search:search("beatles", (), 11)

Lab 14 - 14

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017



Exercise 4: ページネーションを設定する

この演習では、Top Songs アプリケーション用のページネーションを設定します。

1. クエリコンソールに以下のコードを入力し、[Run]ボタンをクリックします。

```
import module namespace search = "http://marklogic.com/appservices/search" at
"/MarkLogic/appservices/search/search.xqy";
search:search("beatles")
```

- 2. search:response 要素に、total、start、page-length 属性があることを確認してください。
- 3. コードを修正し、開始パラメータに値を渡します。

```
search:search("beatles", (), 41)
```

- 4. [Run]ボタンをクリックし、search:response 属性を確認します。
- 5. ex14-4.txt から、ページネーション関数をコピーします。
- 6. index.xqy で、search-results 関数の前(148 行めあたり)にページネーション関数を 貼り付けます。

```
declare function local:pagination($resultspag)
    let $start := xs:unsignedLong($resultspag/@start)
    let $length := xs:unsignedLong($resultspag/@page-length)
    let $total := xs:unsignedLong($resultspag/@total)
    let $last := xs:unsignedLong($start + $length -1)
    let $end := if ($total > $last) then $last else $total
    let $qtext := $resultspag/search:qtext[1]/text()
    let $next := if ($total > $last) then $last + 1 else ()
    let previous := if ((\$start > 1) and (\$start - \$length > 0)) then fn:max(((\$start > 1) and (\$start > 1))) then fn:max((($start > 1) and ($start > 1)))) then fn:max((($start > 1) and ($start > 1)))) then fn:max((($start > 1) and ($start > 1)))))
- $length),1)) else ()
    let $next-href :=
          if ($next)
          then fn:concat("/index.xqy?q=",if ($qtext) then fn:encode-for-uri($qtext)
else (), "& start=", $next, "& submitbtn=page")
          else ()
    let $previous-href :=
          if ($previous)
          then fn:concat("/index.xqy?q=",if ($qtext) then fn:encode-for-uri($qtext)
else (), "& start=", $previous, "& submitbtn=page")
          else ()
    let $total-pages := fn:ceiling($total div $length)
    let $currpage := fn:ceiling($start div $length)
    let $pagemin :=
         fn:min(for $i in (1 to 4)
         where (\$currpage - \$i) > 0
         return $currpage - $i)
```

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017

Lab 14 - 15



```
let $rangestart := fn:max(($pagemin, 1))
    let $rangeend := fn:min(($total-pages,$rangestart + 4))
    return (
        <div id="countdiv"><b>{$start}</b> to <b>{$end}</b> of {$total}</div>,
        local:sort-options(),
        if ($rangestart eq $rangeend)
        then ()
        else
            <div id="pagenumdiv">
               { if ($previous) then <a href="{$previous-href}" title="View previous
{$length} results"><img src="images/prevarrow.gif" class="imgbaseline" border="0"
/></a> else () }
                 for $i in ($rangestart to $rangeend)
                 let page-start := ((plength * page-start) - plength
                 let $page-href := concat("/index.xqy?q=",if ($qtext) then encode-for-
uri($qtext) else (), "& start=", $page-start, "& submitbtn=page")
                 return
                    if ($i eq $currpage)
                    then <b & #160; <u & $i < /u & #160; </b >
                    else <span class="hspace">&#160;<a href="{$page-
href}">{$i}</a>&#160;</span>
                }
               { if ($next) then <a href="{$next-href}" title="View next {$length}
results"><img src="images/nextarrow.gif" class="imgbaseline" border="0" /></a> else
()}
            </div>
    )
} ;
```

7. search-results 関数を編集し、ページネーション関数を呼び出すようにします (ex14-4b.txt からコピーできます)。

```
declare function local:search-results()
    let $start := xs:unsignedLong(xdmp:get-request-field("start"))
    let $q := local:add-sort(xdmp:get-request-field("q"))
    let $results := search:search($q, $options, $start)
    let $items :=
        for $song in $results/search:result
        let $uri := fn:data($song/@uri)
        let $song-doc := fn:doc($uri)
        return
          <div>
             <div class="songname">"{$song-doc//ts:title/text()}" by {$song-
doc//ts:artist/text()}</div>
             <div class="week"> ending week: {fn:data($song-doc//ts:weeks/@last)}
                (total weeks: {fn:count($song-doc//ts:weeks/ts:week)})</div>
             {if ($song-doc//ts:genres/ts:genre) then <div class="genre">genre">genre:
{fn:lower-case(fn:string-join(($song-doc//ts:genres/ts:genre),", "))}</div> else ()}
             <div class="description">{local:description($song)}&#160;
                <a href="index.xqy?uri={xdmp:url-encode($song/@uri)}">[more]</a>
             </div>
```

Lab 14 - 16

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017



- 8. index.xqy を保存し、ブラウザでテストします。「beatles」(あるいは他の語)で検索します。
- 9. ページングのコントロールが、検索結果に表示されるようになったことがわかります。
- 10. URL に、「start」という名前の変数があります。
- 11. index.xqy の pagination 関数(160 行めあたり)にある、[next]ボタンがクリックされると start 変数の値を変更するコードを確認します。

```
then concat("/index.xqy?q=",if ($qtext) then encode-for-uri($qtext) else (),"&start=",$next,"&submitbtn=page")
```

12.4 行下にある、previous(戻る)矢印がクリックされると start 変数を設定するコードを確認します。

```
then concat("/index.xqy?q=",if ($qtext) then encode-for-uri($qtext) else (),"&start=",$previous,"&submitbtn=page")
```

13. 177 行めあたりにある、local:sort-options()への呼び出しを確認します。

index.xqy ファイルをリファクタリングされたバージョンで**置き換え**ます。ここでは、2 つの関数をライブラリモジュールに移動しています。このライブラリモジュールはトップページにソートとページネーションのオプションを表示し、また誕生日の検索結果において楽曲の詳細を表示させる(「more」)のものです。

- 14. mls-projects/top-songs 内の index.xqy の名前を、index_backup_1.xqy に変更します。
- 15. エクスプローラーで、/home/cent/Desktop/mls-developer/unit14/refactored 内の index.xqy ファイルと modules フォルダを、mls-projects/top-songs フォルダにコピーします。
- 16. ブラウザで http://localhost:8040 を**更新**します。依然としてこのアプリケーションが ちゃんと動くことを確認します。
- 17. トップページに、ページネーションとソートのオプションが表示されていることを 確認します。

Developing MarkLogic Applications I - XQuery © 2017

Lab 14 - 17



18. テキストエディタで **index.xqy** と **modules/display-lib.xqy** を開き、description 関数と display-song-detail 関数がライブラリモジュールに移動していることを確認します。